

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

石島

3

MARCH
1995



No.461



季節の香

かおり

【ネコヤナギ／猫柳】

冬の間、すべての葉を落として寒々とした装いだっただ。凍てつく氷雨に耐え、吹雪に震えて凝っと堪える。その厳しい冷気の中で、春迎への準備を着々と進めていたのである。

良く暗れた日に風が強く吹き、乾いた土を舞いあげ、猫柳の小さな芽を揺すった。ネコヤナギは逸早く春を知り、花芽を大きく膨らませる。太陽のあたる南側が、より大きく膨れるから方角を知る手段になる。

川筋に沿って点々と銀白色の花芽が目立つ。軟らかい絹毛を密生した帽子が、フンワリ盛り上って黄色の薬がキラリと光る。その形を猫に見立てた。川の流れが春らしく軽やかな響きを奏でている。暖かな陽射しの中に、チョウの姿を見るのも間近い。

COLUMN

赤城の山も今夜を限り

◆どんなに悪業を重ねた人でも、最後に立派なことをすれば、その立派だけが印象に残る。また、世間に名を知られた評判の良い人も、最後に罪を犯せば悪人のレッテルを貼ったままに終る。人生の幕引きの難しさである。幕を下ろした後のカーテンコールこそ、その人の生き様への評価といえるだろう。本人には判別不可能なことではあるけれど…。

◆「赤城ノ山モ今夜ヲ限り、生レ故郷ノ国定ノ村ヤ…」新国劇『国

定忠治』の名セリフである。辰巳柳太郎のスックとした立ち姿を思い出す。忠治は次の場面で、悪い博徒を散々に懲らしめ、哀れな百姓親子を救う。これを恨んだヤクザ一家が待ち伏せるのが小松原の場。忠治の手から提灯が落とされ、舞台は闇となり歌舞伎のダンマリの手法を使ったりアルな殺陣を見せている。十数人をアツという間に倒して花道に入ると幕になる。その間合いの素晴らしい動きが何とも見事で、うっとりとし見惚れる。この芝居の痛快さはこの幕切れにある。

◆人生の幕切れを自殺という手段

で締めくくる人もいる。近しい取巻きの驚きは大きく、突然の死に対する批判やら早い生涯を惜しむ声が起こる。『助六』の意休などを得意芸とした「八世市川団藏」は、四国遍路を終えた後に自らの命を断った。老優の多い梨園でも地味な存在の人と言われたが、味のある演技ができた役者だった。引退興行を終えて覚悟の自決ということだが、小豆島からの最後のハガキには「長生きして徳をした」とあったという。華々しい舞台人としては余りにも寂しい終焉である。

(遊方子)

拓水

MARCH

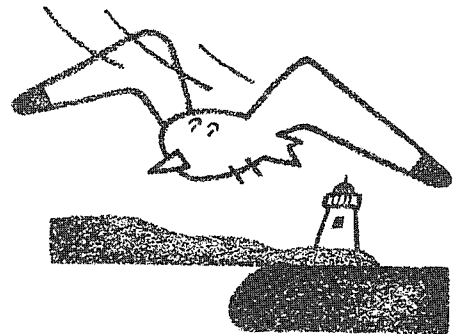
CONTENTS

季節の香	2
ネコヤナギ／猫柳	
特集	4
緊急レポート 阪神・淡路大震災被災した漁業者たちの復興への道	
水試ノート	9
日本海のマダイ資源増加に向けて	
海区漁業調整委員会だより	
栽培漁業センターです	11
漁海況情報	

こちら海ですロケだより

城崎文学散歩～兵庫県城崎郡城崎町より～

旬の美味しい話と兵庫JCC通信はお休みさせていただきます



今月の表紙

フォトギャラリー



フォト歳時記

復興の響き(神戸市内にて)
震災で受けた打撃を、跳ね飛ばす勢いで復旧活動が始まった。「震災にまけるなヨ」と力強い励ましの声が寄せられている。町にはガレキを満載した車が疾走し、砂埃りがある。復興の力が町全体にみぎぎっている感じがする。
避難場所から仮設の住宅へ移動し、少しは手足を伸ばせる暮らしに戻った。遠い町から応援に駆けつけてくれたボランティアの人たち。博愛に燃える暖かい人の心に触れて胸が熱くなる。
春の息吹きと共に、新しい町が創造されていく。

表紙写真募集

アマチュアの方で、ご自慢の写真がございましたら、左のように明記してお送り下さい。写真は必ずご返却いたします。①写真撮影場所②氏名(フリガナ)③郵便番号・住所④自宅電話番号(市外局番号も)⑤年齢・職業
送り先

千六五二神戸市兵庫区中之島二丁目
二一 県立水産会館
兵庫県漁業協同組合連合会
指導部指導課「拓水」係宛

阪神・淡路 大震災

淡路島北淡町を震源にした今回の震災は、淡路島北部はもとより神戸、明石、芦屋、西宮、宝塚、伊丹と広範囲にわたる被害をもたらし、自然の力の凄まじさを見せつけた。家屋の倒壊、交通網・ライフラインの寸断によって不自由な生活を余儀なくされ、沿岸部の被害は漁業関係者の生活基盤に大きなダメージを与えたが、震災から二カ月が過ぎた今、震災のショックからようやく立ち直り、街も人も復興への道を歩みはじめた。

今回は、全国漁協系統組織を挙げて震災による支援活動を展開していただいている全国漁業協同組合連合会（総務部広報課長 市村隆紀氏）より「震災による復興に向けて」のレポートが三月九日～十日の両日、八漁協に対して行われたので、その模様を紹介したい。

被災した漁業者たちの復興への道



浅野浦漁港

生活基盤の立て直しは 住宅資金の解決から

一月十七日、地震発生時刻の午前五時四十六分。この時刻になると出漁していた漁船も多く、最初の衝撃を船の上で受けたもののスクリーンに何かが巻きついていたと思ひ、エンジンをスローにクラッチを切って衝撃の原因を確かめた人もいたようだ。

漁をしていても落ち着かず、肝心の魚はさっぱり、異変を感じて港へ帰ってみれば岸壁が陥没し、付近の家は倒壊。しばらくの間は呆然とその光景を眺めていたと語る人もいた。

沖にいた漁業者は、下から突き上げる衝撃と激しい揺れに驚き、揺れが治まっ

た後もあたりは真っ暗。早朝からのりの加工場で働いていた人たちも外に出ようにも場内が停電していたので身動きがとれない状態だったと言う。

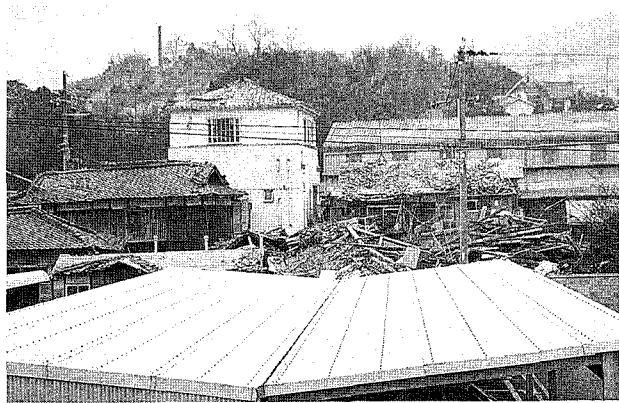
震源地となった北淡町の被害はそれぞれの漁協によってさまざまだが、一月はほとんどの漁協が最盛期を迎えているのり生産を断念せざるをえない状況で、漁港・関連施設等の復旧作業や倒壊した家の片づけに追われていた。

育波浦漁協・嵐組合長 「育波浦地区では一五〇戸近い家が全半壊。その内一〇〇戸が漁業関係者で、震災直後は組合の施設を開放したが、たくさんの人たちがそこで避難生活を送り、二カ月たった今でも四世帯がそこで生活をしている。

町からの避難所指定を受けておらず、不自由な生活を送る人たちに充分な対応はできなかったが、みんな協力し合ってくれたので苦しい時期を乗り越えられたのだと思う。



避難生活をしている組合の施設で（育波浦漁協）



富島漁協（周辺）

町からは、組合所有の土地を避難生活する人たちに、仮設住宅を建てる土地提供の要請があり、組合員に一日でも早く安定した暮らしをと思い組合員優先で入居できるようお願いした。」

富島漁協・阿部組合長 「富島地区では倒壊した家が道をふさいでいたり、道幅が狭くて作業の車が通れない箇所があるので、町全体の復旧作業が大幅に遅れている。全壊した家の撤去作業だけでも五月一杯はかかる見込みで、四月頃には仮設住宅への入居もほぼ完了するようだが、被災した組合員全員が漁港近くの仮設住宅に入居できるとは限らないようだ。のり加工場や漁具倉庫を片づけて寝泊まりしている人やテント生活を続けている人も少なくない。」

漁師が生活の基盤を建て直すには漁港あるいは港湾等の近くの仮設住宅に入居できることが一番望ましいが、なかなかそうも言っていない所が多いようだ。

町や漁港の復興もさることながら、組合員が直面しているのは住宅問題。組合長に寄せられる相談も住宅に関する相談が一番多いようだ。

淡路町漁協・高橋組合長 「淡路町では、三三〇世帯の組合員の内、二四世帯が全壊、一〇〇世帯が半壊の被害を受けた。被災した組合員が今一番困っていることは生活及び住宅資金。家の建て替えや修繕には相当の費用がかかり、自己資金で負担するにしても当面は通常の漁獲高が見込めない今の漁場の現状を考えれば頭の痛い話だ。

組合としても応援はしていくつもりだが、被害の大きさと被災した人があまりにも多いので全面的にバックアップすることは難しい。今は少しでも役に立つよう、行政の免税処置や資金援助の情報をたくさん収集して組合員に提供するしかない。」

ライフラインの復旧や交通機関の再開によって被災地の復興ムードが高まる中、そこで生活する者には計り知れない厳しい現実がある。

漁師を沖に出してやること 組合の一番の仕事

組合員の住宅資金問題の他にも、漁港等の復旧、漁場の安全管理、漁協の経営と、今後の漁業の見通しを把握しながら解決していかなければならない問題が漁協にはたくさん山積されている。
漁場の被害状況や地震発生後の操業状況等をまとめてみた。



●淡路町漁協 高橋組合長



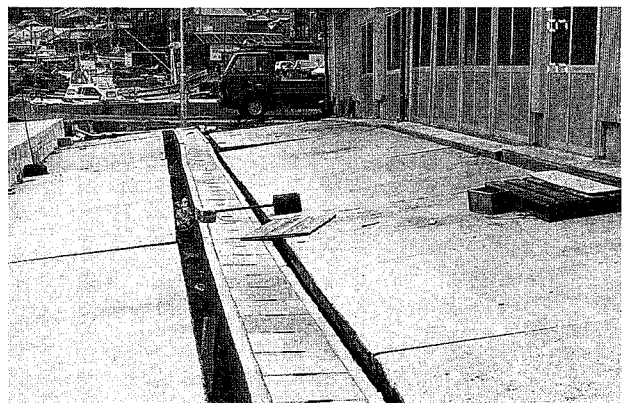
「漁港の被害は、給水設備が破損し荷さばき所の活魚用水槽や冷蔵・製氷設備が使用できない状態だった。それぞれ仮復旧したもの、本格的な復旧作業は岸壁の整備が完全に終わってからのことと思う。個人の漁具倉庫もかなり傷んでいるようだし、漁船二隻も被害を受けた。」

操業は一月の終わりに半程度程度の漁船が出漁しているが、いかなごの漁獲高でみると前年比五〇％の落ち込みで、漁に出ても油代を捻出するのがやっと。

瀬に魚が集中する時期にもかかわらず魚の姿が見えず、海が濁り海底から温泉が湧き出ているという話もある。はつきりとした原因追求のためにも、徹底的な海底調査を実施してもらいたい。

流通関係では、阪神間の高速道路が崩壊しているため、京都や名古屋方面に出荷している活・鮮魚に大きなダメージを受けた。

一方で、震災後は『いかなごのくぎ煮がおにぎりのおかずがいい』と重宝がられよく売れた。二〇件以上あるくぎ煮の加工場は忙しかつたようだが、いかなご自体の漁獲量がダウンしているので喜んでばかりはいられない。」



淡路町漁協

●浅野浦漁協 浅田職員



「組合職員の中にも家が全壊した者が数多くいたので、組合の機能を再開したのも震災から十日あまりたつてからだ。」

組合の建物にも亀裂が入り、のりの選別所と荷さばき所は基礎が少し崩れ傾いているが、二月末よりのりの生産を再開しているため選別所は傾いたまま使用している。

漁船漁業は、二月十一日から操業を再開したが三分の一度の出漁で、通常通りの操業ができたのは三月になってから。流通機能がうまく流れていなかったため、値の方は若干安くなっていたようだ。」

●富島漁協 阿部組合長



「十二あるのり加工場の地盤が動いて不安定になり、震災直後は復旧のめどが立たない状態だったが、県漁連からの応援もあって三月から全部の加工場が稼働できるようになった。しかし、水揚げの方は相当の減収が予想されるので、本格的な立て直しは来年以降になりそうだ。」

漁船漁業については、二月二十日頃に組合員の方から『そろそろ漁に出てもいいか』という声があったので、急ピッチで漁港関連施設の仮復旧を進め二十五日に底びき船が出漁した。地震の影響が出ているのか水揚げは半分しかなかったが、漁船のエンジン音が聞かれるようになってから町にもようやく活気が戻ってきた。セリ市はいつも午後二時から始まるが、仲買人から交通事情が混乱しているの



浅野浦漁港

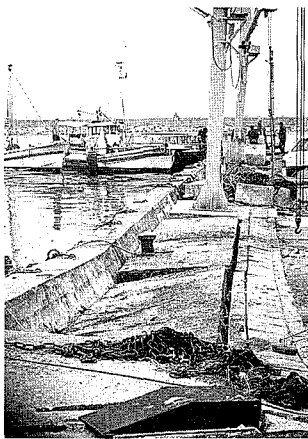
正午にしてほしいという要請があり、二時間半操業を短縮してセリ市を開いた。値は、阪神間の消費量が減っていたので活・鮮魚とも二〜三割のダウン。四月以降のたいやたこ、きすこの漁獲量や値を心配しているところだ。」

●育波浦漁協 嵐組合長



「漁に出ても水揚げはあまり期待できないと思っていたが、出漁することで組合員の元気が少しでも戻ればと思い、まず漁港と荷さばき所の仮復旧を手がけ、二月七日には出漁できる状態にした。」

のり生産の方は、加工場前の道路が陥没し配水のパイプが寸断してしまい、当初は復旧にかなりの時間と費用がかかる見込みだった。こちらの方も二月二十五日には修理を完了させるからと組合員に



富島漁港

断言し、二月七日に網の本張りを始めてもらった。沖に出ることによって生き甲斐を取り戻し、復興への意欲を出してくるのではないかと思いい、各方面への協力を仰ぎ何とか操業を再開したが、大変なのはこれからだと思う。」



育波浦漁港

●室津浦漁協 小川組合長



「のり生産は二月五日から一部試運転を始め、十六日には本格的な稼働を始めた。のりは北淡町の基盤産業でもあるので、一日も早い再開が町の復興につながると思いい、当初から復旧作業には力を入れていた。」

ただ通常の生産形態ではなく、協業化の経営体で再開し、共有財産ののりをみ



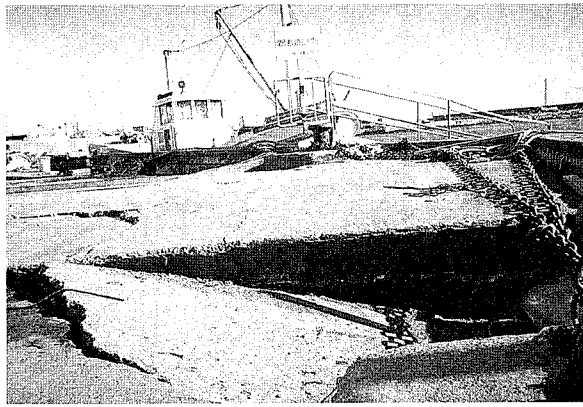
陸揚されたのり網

んなで守って復興しようという動きが自然と集まってきた。四〇才代のバイタリティ溢れるリーダーが中心となり、のり対策協議会が発足。今まで出来なかった協業体が確立されつつある。

大きな被害でそういう動きしか出来なかったのも事実だが、合理的な経営である協業体に取り組むようになったのも地震のおかげかもしれない。

漁船漁業については例年並みの水揚げが確保できたものの、阪神地区の消費量が落ち込んでいたため、三〜四割程度しかさばけなかった。大阪・京都・姫路方面へ各自がそれぞれ手を尽くし直接出荷していたようだ。組合員ひとりひとりが本当に頑張っていたと思う。」





林崎漁港

「岸壁が沈下し、八〇〜九〇センチの断差ができたところもあった。漁業関係施設の建物自体には大きな被害はなかったが、のり選別所や荷さばき所の水槽や配水パイプが破損し、仮復旧に一週間もかかった。復旧後は水の確保に苦労したが、二月始めにはのりの生産も漁船漁業も再開することが出来た。」



●林崎漁協 石井組合長

「新しい荷さばき所を四月十日完成予定で建設中だったが、震災で工事はストップしたまま。のりの生産は一週間ほどの遅れで再開することが出来たが、漁船漁業については、出漁しても水揚げが少なく活魚に力を入れている当組合としては大きなダメージだ。このダメージは仲買人たちにも影響を与え、阪神間を得意先とする仲買人の中には廃業した人もいるという。漁業者たちは『これ以上悪くならないだろう、今は辛抱の時』と言っているが、いつ頃から通常の漁が出来るようになるのか、はっきりとした見通しつかないだけに不安は残る。漁協としては、高級感と新鮮さに高い信用度を持つ『明石』の看板を汚さないよう出来る限りの救援をしていきたい。」



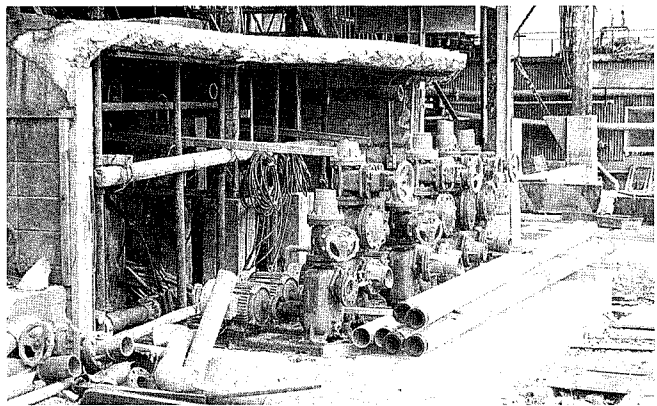
●明石浦漁協 戎谷組合長

荷するが、不幸中の幸いか消費量の落ち込みもあるが、水揚げ量が更に少なかったので、値は比較的安定していたと思う。四月からは漁港の本格的な復旧にかかる予定だが、いかなご漁の後、ちりめんやたい、たこの漁がどの程度あるのか心配している。」



●神戸市漁協 山田組合長

「この地震によって当組合管内の長田区駒ヶ林浦から垂水区舞子までの広い範囲にわたって壊滅的な被害を受けた。私は当初、組合員と職員の方々の確認を指示すると同時に、被災組合員に対し組合のとれる救済対策を目的とした緊急協議



明石浦漁協

と
思
っ
て
い
る。」

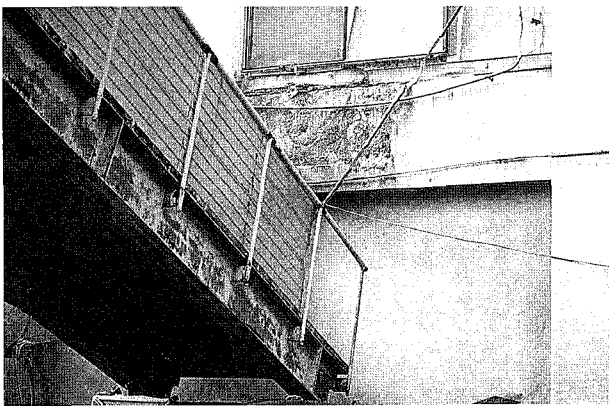
を行った。家屋被害では全壊したもの四十八軒、半壊に至っては百十三軒を数え避難所生活を送るものが多かった。一方、漁港・港湾施設や共同利用施設には、護岸に亀裂を生じ、1メートル以上陥没。内部も液化化現象によりデコボコに変形していた。とりあえず半分は砕石で穴埋めし、アスファルトによる仮舗装で応急措置をした。また、最盛期を迎えていた、のり養殖加工場の仮復旧を急ぐとともに魚市場、給油所、製氷所、ポンプ施設等、生産ラインに基づく施設の仮復旧を急ぎ、二月八日にはこれらの作業を終え一段落をした。震災以来、各方面から垂水漁港に陸揚げされた救援物資に併せ、当組合在庫ののり、くぎ煮、ちりめん等も神戸市の指示により被災地に配達提供した。くぎ煮については、その後全国から百件以上の注文をいただいたことを考えれば、神戸の漁業を全国多くの人に知ってもらおうきっかけになったのではないかと
思う。組合にとっても、これからが正念場で、経費節減はもちろん役員手当、残業手当のカットを当分の間実施。うず潮職員にも再開まで一時帰休とし、一日も早い復活を期待している。将来的には、明石海峡大橋の完成と併せ神戸市民の憩いの場、海の自然とのふれあいの場となるマリニピア神戸を計画しており、阪神間の食糧産産を支える都市型漁協として神戸の復興に貢献していきたいと考えている。」



●県漁連 青専務



「今回の震災では、復興対策本部となるべき県漁連の事務所も大きな被害を受けた。職員の多くも被災したため早期の復旧対策が不十分で被災した漁協には大変ご迷惑をおかけしたが、それぞれの組合長が強い使命感と責任感をもって行政へ掛け合ったり、被災した組合員の救済に走り回って下さった。その働きに感銘すると共に深く感謝し、

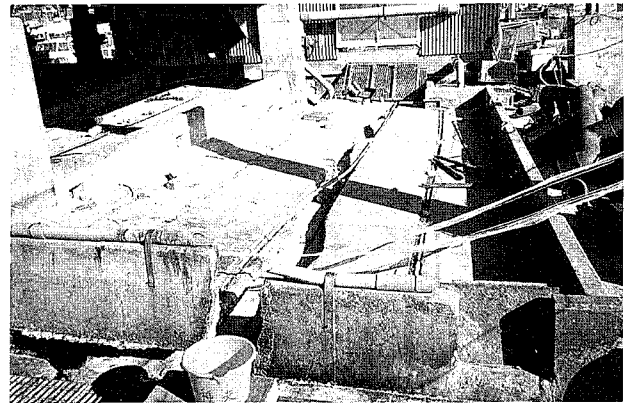


加工場ベルトコンベアー（神戸市漁協）

明石海峡の漁場の徹底的な調査が望まれる一方で、淡路地区と神戸・明石地区の漁業は大きな変換期を迎えている。というのも、大地震の影響から明石海峡から魚が減り、資源への危惧が組合員の不安を募らせている。そして、残り少ない資源をみんなですべて守っていかねばならないという資源の危機管理感を組合員全員が持つようになった。室津浦漁協・小川組合長 「漁業は、農業のように畑が半分になったから収穫が半分になるというような確かな見通しがつきにくい商売。」

資源管理型漁業を 組み込んだ復興対策

今後は県漁連も全力を尽くして組合員の安定した暮らしと漁業の復興を支援していきたいと思う。」



活魚水槽（明石浦漁協）

各地の資源管理を 呼びかけるポスター

タイやヒラメなどの小さい魚を再放流しています。

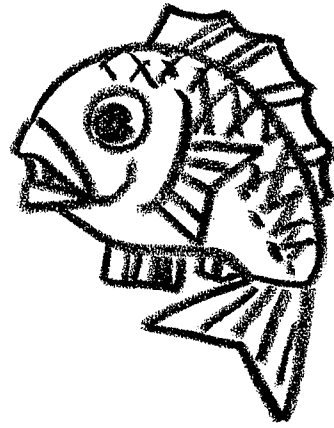
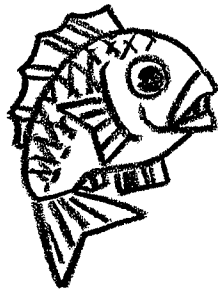
ヒラメ	2000尾	1000尾	1000尾	1000尾
タイ	1000尾	1000尾	1000尾	1000尾
ササギ	1000尾	1000尾	1000尾	1000尾

わたしたちは 大きくなるまで 待ちます。

各地の小規模な漁協・村議会 兵庫県 兵庫県漁業協同組合連合会

ましてや海の資源は自己の財産でなくみんなの共有財産だから、組合員同士、組合同士が信頼関係を持って助け合っていかなければならない。」
明石浦漁協・戎谷組合長 「魚礁の設置や稚魚の放流は漁場復興の大きな柱になるが、いくら魚礁を増やし稚魚を放流しても、その魚が育つ前に漁獲してしまっでは意味がない。震災前からも小さい魚は海に帰すという啓蒙運動をすすめていたがなかなか定着していない。しかし、今回の震災で誰もが資源の大切さを痛感した。さらに被災した人の数が多いことや被害の大きさによって、自分だけが苦しいんじゃない、みんな大変なときだからこそ助け合っていかなければならないという思いが強く芽生えている。」
県漁連・青専務 「組合員から週休二日制の定着や禁漁区域の設定という声も上がっている。声だけでなく確実に実践していくことを組合員皆さんにお願いしたい。」

資源の管理型漁業を徹底していくこと
は漁村の復興にもつながり、安定した漁業を確立し魅力ある漁業にすることは、後継者づくりの要因になるのではないかと感じる。」
数十秒間の出来事によって、漁業の将来さえも左右してしまっただけの大地震。いまさらながらその被害の大きさを感じてくる。
震災直後は誰もが毎日の暮らしに必死だった。時が経つにつれ復旧がすすみ、被災者は元どりの生活を取り戻す以上に、以前よりももっと快適で安定した暮らしを手に入れようとしている。
復興の道は長く、険しい道になりそうだが、ひとり一人の力が大きな力となっていくことは確かだ。震災直後は全国から多くの善意が寄せられ、たくさんの方のボランティアに支えられここまで来られたと言っても過言ではないだろう。
そして今、自分たちの力を頼りに着実に歩み始め、春の訪れとともに淡路・神戸・明石の港に『復興』という花を咲かせてみたい。



日本海のマダイ資源増加に向けて

日本海の港で水揚げされている水産物という、まず、ズワイガニやスルメイカなどが連想されます。その様な沖合種の漁獲量が多いため沿岸性の魚類は数量的には目立ちませんが、マダイやヒラメといった瀬戸内海などでお馴染みの魚も、様々な種類が市場に水揚げされています。

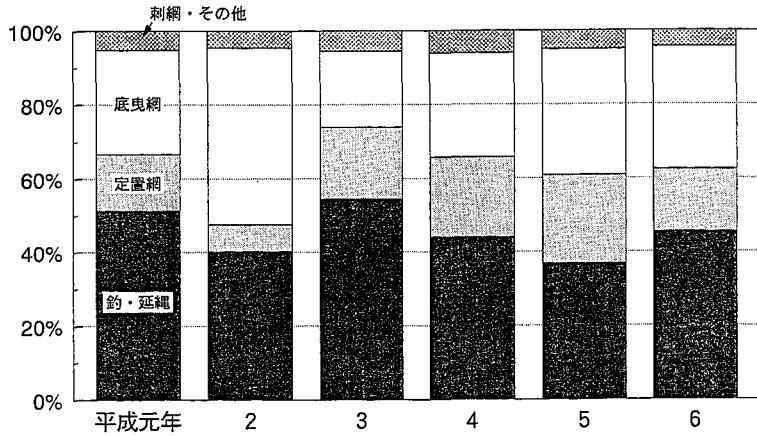


図1 漁法別漁獲重量組成

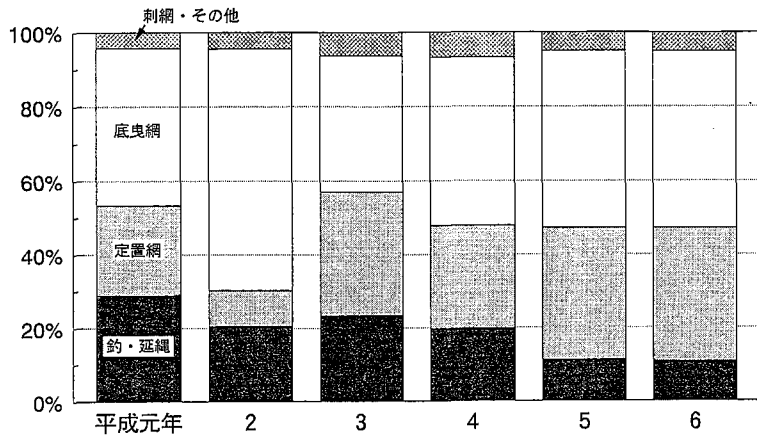


図2 漁法別漁獲尾数組成

それらの魚種のうちマダイは昭和六十三年に始まった資源管理を推進する事業でも対象種になっています。日本海のマダイは、釣、延縄、定置網、底曳網、刺網などで漁獲されています。平成元年～六年までをみると一緒に漁獲されるチダイやキダイを除いた真のマダイ漁獲量は二十～三十トンで、それを尾数に換算すると四～十万尾になります。平成元年～六年の漁業種類別の漁獲重量組成(図一)をみると釣・延縄が四十～五十%を占め、次に底曳網、定置網となっています。一方、尾数(図二)からみると釣・延縄は全体の十～二十%を占めるにとどまっています。これは、釣・延縄で漁獲されたマダイの八十%程度が一尾当たりの体重が重い五才以上の高齢魚であったのに対し、他の漁業では一尾当たりの体重が軽い一、二才魚の占める割合が大きかったことによります(図三)。漁業種類により年齢組成がずいぶん異なるということが判かります。

資源管理の観点からみると、漁獲されているマダイの年齢は非常に重要です。例えば、魚をあまり小さい内に漁獲してしまうと全体の漁獲量が少なくなってしまうので、資源を有効に利用しているとは言えません。瀬戸内海では底曳網でマダイの〇才魚が大量に漁獲される「不合理漁獲」が問題になっています。日本海でも、秋になるとその年生まれ的小型魚が網にかかるようになるので、資源管理の

ため再放流を実施するよう呼びかけています。

マダイは、種苗生産技術が確立されている魚種なので人工種苗の放流が実施されており、それによる漁獲量の安定・増大も期待されています。

兵庫県栽培漁業センターでマダイの種苗生産が開始されたのは昭和五十七年からで、日本海側でもその年より種苗の配布を受け放流を実施しています。その後、平成六年に但馬栽培漁業センターが香住にオープンし、地元で生産した種苗を放流できるようになりました。それまで、多くても十萬尾前後であった放流尾数が、平成六年には二十一萬尾と二倍に増加しました。

放流の効果を把握するため、平成元年以降放流マダイの漁獲状況を調査していますが、その尾数と割合（混獲率）を図四に示しました。年によって増減がありますが、平成六年の再捕尾数は約三千七百尾、混獲率は六・四％と調査期間中では最も高い値になっています。これには、平成六年に放流したマダイは含まれていないので、放流尾数の増加が平成七年以降どのように効果として表れてくるのかが楽しみです。

小型魚の再放流や種苗の放流によってマダイの漁獲量が安定・増大すれば、おのずと漁業経営の安定に寄与していくものと思われます。今後とも調査を継続しながら、成果を確認していきたいと思えます。

（但馬水産事務所試験研究室 中村）

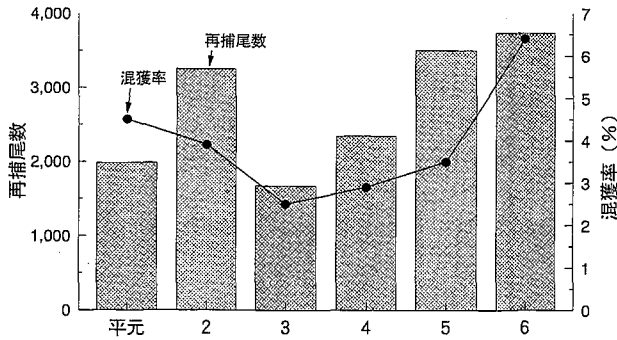


図4 放流マダイの再捕尾数と混獲率

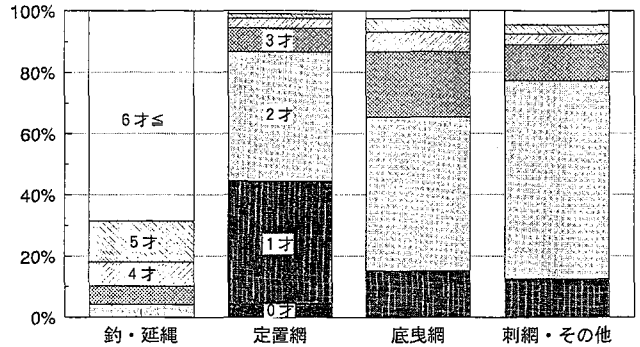


図3 漁法別年齢別漁獲尾数組成（平成6年）

海区漁業調整委員会だより

二月二十一日

第二二八回兵庫瀬戸内海海区漁業調整委員会及び委員協議会を兵庫県立水産試験場で開催

第二二八回委員会

一、瀬戸内海における小型機船底びき網漁業許可方針の一部改正について（諮問）

兵庫県知事から諮問のあった小型機船底びき網漁業許可方針の一部改正について審議を行い、原案どおり承認された。

改正点としては、まんが漁業以外の小型機船底びき網漁業の滑走装置をつけた漁具を禁止するものである。

委員協議会

一、今期のいかなご予報について

今期のいかなご漁況の見通しについて水産試験場から説明が行われた。

二、岡山・兵庫瀬戸内海連合海区漁業調整委員会の平成七年度入会協定内容について

このことについて審議を行い、当海区としては前年どおりの内容で臨む方針が確認された。

三、その他

・平成七年兵庫瀬戸内海連合海区農林水産業関係被害について

このことについて、水産課から被害状況について説明された。

・瀬戸内海連合海区漁業調整委員会委員の選任について

故酒部委員の後任に岩城会長が選任された。

二月二十二日

第三八二回但馬海区漁業調整委員会及び委員協議会を但馬水産事務所会議室で開催

（委員会議事）

一、敷網（浮敷網）漁業の許認可取扱方針について（諮問）

昨年未をもって従前許可の有効期間が満了した当該漁業につき、本年四月一日以降三年間の許認可に係る取扱方針について県知事から諮問がなされ、審議の結果「原案どおり決定されて差し支えない」旨答申することを議決。

二、但馬海区漁業調整委員会運営要領の制定について（審議）

前回の事前協議で方針決定をした運営要領の制定につき審議の結果、原案どおり制定し、即日施行することを議決。

（委員協議会議事）

三、第二十四回因但漁業調整協議会の結果について（報告・協議）

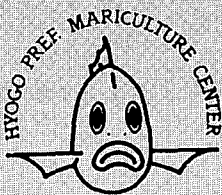
去る二月二日、温泉町で開催された兵庫・鳥取の入会海域に係る漁業調整協議会の結果を報告。また、報告内容に関連し、鳥取県側から指摘のあった一部の兵庫県小型いかづり漁船の光力規制違反問題につきその対応を協議し、県に指導と取締を徹底するよう要請。

四、水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画の策定について（報告）

昨年五月の第三七五回委員会答申を経て定められた兵庫県の第三次栽培漁業基本計画が去る二月三日付けをもって公表されたことから、その内容を報告し、答申時との変更点を再確認。

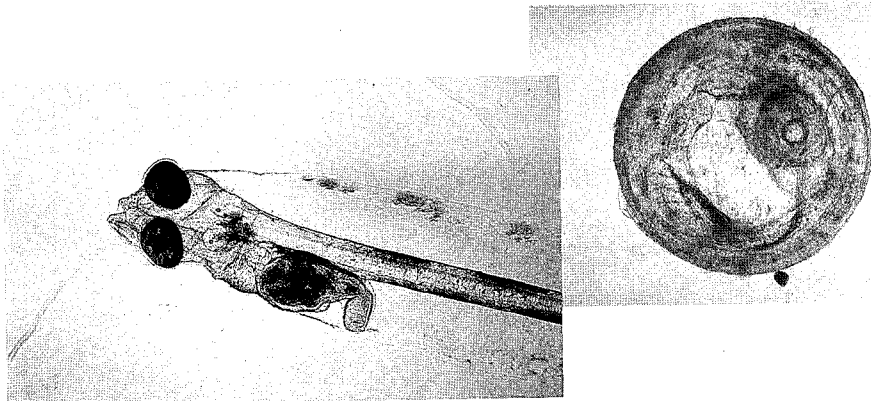
五、全漁調連会長表彰の被表彰者の推薦について（報告・協議）

委員として十年以上就任し、その功績が顕著な者に対し授与される全漁調連会長表彰の被表彰者に、村瀬、吉岡、川口委員の三氏を推薦することを決定。



栽培漁業センターです

78



マコガレイの受精卵
(受精後7日目)

マコガレイの仔魚 (ふ化後5日令、おなかいっぱい、餌を食べているのがよくわかる)

栽培漁業センター 広辞苑(へ) 変態 成体になる過程の形態や生態の急激な変化。脊椎動物では魚類と両生類に見られ、生活様式を多様化することで生残、ひいては種を維持するための方策であると考えられている。マコガレイやヒラメの仔魚期では眼球の移行現象や体の扁平化等異体類特有の顕著な形態変化を伴う。(兵裁協 楽 敦司)

戦後最大規模の兵庫県南部地震が起きてから、二十日が過ぎようとしています。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

マコガレイの種苗生産事業は、一月九日にふ化仔魚五四・三万尾を二十五トンのコンクリート水槽に収容して開始しました。途中震災の影響で成長は遅れていますが、全長九ミリになり着底が始まっています。マコガレイは変態後着底するヒラメと異なり、変態の大半の過程は着底後に起こるので、種苗生産の山場はこれからです。

漁海況情報

兵庫県立水産試験場

海況

概況 気温の低下に伴い水温も急激に低下し、播磨灘表層の十五地点平均値で九・一℃と平年値(八・八℃)に近づいた。一方塩分の上昇は続いており、十五地点平均塩分が表層で三三・四二と平年を約一・一上回っている。透明度は先月に比べ低い値を示している。播磨灘において昨年十一月以降大発生していた小型珪藻タラシオシラの群体はほとんど認められなくなったが、代わって灘北部を中心に大型珪藻コスキノテイスカス・ワイレシイが増加してきた。本種が多く発生している海域では、窒素、リン等の栄養塩類が減少している。本種の分布域は今後更に広まる可能性がある。特にノリ養殖では注意が必要である。(下図右端にコスキノテイスカス・ワイレシイ出現数を示した)。

水温 播磨灘北部沿岸では八℃を下回るところも見られる。灘底層の十五地点平均水温は九・〇℃で平年並みの値である。紀伊水道では、十四～十五℃の暖水の差し込みが認められる。

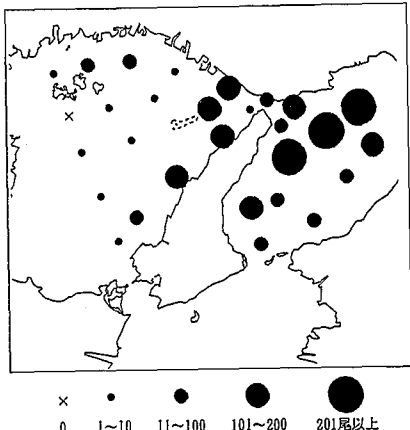
透明度 季節風の連吹による海水の攪拌等により播磨灘全域で濁度が高まっており、透明度は先月に比べ一m以上低下した。プランクトン 栄養塩を大量に消費するためノリ養殖に被害をもたらす大型珪藻コスキノ

ノテイスカス・ワイレシイが、播磨灘北部の多いところで海水1ℓ中二百細胞程度認められる。灘北部沿岸にはスケルトネマ等の小型珪藻が発生しているが、播磨灘のその他の海域では植物プランクトンはほとんど見られない。
栄養塩 タラシオシラ群体の消滅により、播磨灘十五地点平均の栄養塩類濃度は先月に比べ幾分増加した。しかし大型珪藻発生量の多い灘北部沿岸では溶解態窒素、リン、珪酸ともかなり低い濃度となっている。

小型底曳網 明石海峡周辺を主漁場とする小型底曳網では、マダコ、イイダコが主体である。紀伊水道北部ではマコガレイ、メイタガレイが主体である。
一本釣り 曳き網釣り 明石海峡及びその周辺域では、スズキ、メバルが主体である。紀伊水道北部では、マダイ、カサゴ、マサバが漁獲され、建網ではメバルが主体となっている。

船曳網 二月二十四日、イカナゴしんこ漁が播磨灘・大阪湾で解禁となった。水揚げ量・水揚げ金額とも、ほぼ昨年並みの様様である。

イカナゴ稚仔採集数(1月と2月の合計)



●サンテレビの

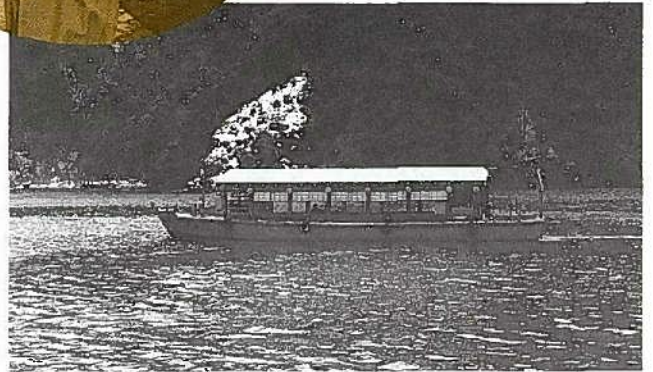
こちら 海です



朝湯とシャレこんだりポーター



三木屋の御主人に志賀直哉のエピソードを聞きリポーター



円山川の屋形船

'95. 1月22日放送
(第904回)

ロケだより

城崎文学散歩

～兵庫県城崎郡

城崎町より～

兵庫県一と云うよりも日本有数の温泉：但馬の城崎温泉。但馬一の円山川に面し町の中央を支流の大谿川が流れ、大谿川の兩岸の柳並木と三階建の旅館群が風情ある町並みを形成、古くから多くの人々に愛されてきました。凡そ一千四百年の歴史ある城崎温泉には、この温泉と町を慈しんだ多くの文人墨客も足跡を残しています。

城崎温泉は西側に標高二百二十二メートルの大師山を控え、三方を山に囲まれた湯の里です。

温泉の歴史は、伝説によると飛鳥時代にコウノトリが傷を癒すのを見て発見された、『鴻ノ湯』がその初まりとも、大師山の中腹の温泉寺の開祖道智上人が発見した『まんたら湯』がその初まりとも云われていますが、何れにせよ豊かな湯が今日まで湯の里を潤しています。城崎温泉が京の都にまで聞こえた温泉場として歴史に登場するのは平安時代。中世の頃は、二見と云う所に平安時代の三十六歌人の一人『藤原兼輔』の『夕づく夜 おほつかなきを玉くしげ ふたみの浦は あけてこそ見ぬ』と云う歌の碑が建てられています。この歌は、藤原兼輔『堤中納言が城崎温泉に来て二見に泊まった時に詠んだものです。のち南北朝時代には『吉田兼好』『兼好法師』も旅情溢れる歌を残しています。又、城崎を代表する外湯の一つ『御所の湯』は、南北朝時代の歴史小説『増鏡』によると後醍醐天皇の准母、安嘉門院が入湯されたことに由来すると記述されています。近世、江戸時代に入ると城崎温泉の名は益々知れわたり、近くの沢庵和尚も度々この地を訪れ数種の和歌を残していますが、忘れてならないのが『柴野栗山』です。江戸時代の儒学者『柴野栗山』は、晩年、この地に度々湯治に訪れ城崎を景勝地として天下に推賞したのです。よって、より多くの栗山を慕う文人墨客が訪れ、城崎温泉は日本でも有数の温泉場として天下に知られるようになりました。『柴野栗山』は城崎にとって大恩人とも云うべき人です。この頃になると一夜の宿が縁で、老舗の旅館には思い出やエピソードが今も残っています。

島崎藤村・吉井勇・白鳥省吾：近世に入って城崎に足跡を残した人々は枚挙にいとまがない程です。中でも教科書にも取り上げられた『城崎にて』の志賀直哉はとりわけ有名です。この志賀直哉が『城崎にて』を書いたと云われる旅館や、桂小五郎が湯治客を装って隠れたと云われる旅館、昭和初期の歴代の宰相が馴染みにした旅館：等等、旅館の展示室が宛ら小さな美術館の趣の旅館ありで、城崎温泉は町全体が文学の散歩道と云う感です。名物の外湯めぐりを楽しみながら、町のあちこちに建てられた沢山の文学碑をたずねる。大正ロマンが残る城崎温泉。明治四十二年に訪れた播州生まれの柳田国男は紀行文の中で『湯島(城崎温泉)は、山間なれども、一面はまた水郷の趣きあり。雨中の水に上は寂しきものなり、波たぶたぶとして舟を揺るかす。』と、書いています。円山川に舟を浮かべた時の思い出でしょうか。季節折々いろいろな表情の城崎…湯の香と文学…中々おつな町です。